

平成21年度 フード・コミュニケーション・プロジェクト 実行可能性調査事業 選定結果について

フード・コミュニケーション・プロジェクト運営事務局（以下「運営事務局」という）では、「協働の着眼点（第1版）」を実際のビジネスで活用し、その実行可能性を検証する調査の平成21年度の実施者をフード・コミュニケーション・プロジェクト（以下「FCP」という）の趣旨に賛同する情報共有ネットワークの参加者を対象として募集し、9件の調査を選定いたしました。

選定の経緯、結果は以下の通りです。

●募集期間

平成21年5月12日（火）～平成21年5月27日（水）

●募集内容

FCP情報共有ネットワーク参加登録企業・団体を対象に、以下の1～6のテーマに該当する実行可能性調査の提案を募集しました。

募集テーマは平成20年度に開催した「協働の着眼点」の活用方策を検討する研究会でご提案いただいた中から選定しております。

<募集テーマ>

1. FCPポータルサイトの構築・運用
2. 「協働の着眼点」を活用した活動のためのツールや教材の開発・運用
3. 「食品事業者業務評価基準」の開発・運用
4. 「協働の着眼点」を活用した活動のための人材育成プログラムの開発・運用
5. 「地域の良い〔モノ〕売れる商品支援事業」モデルの構築・運用
6. 食の信頼性向上をテーマとした地域住民参加型活動プログラムの開発・運用

●選定結果

募集期間中に13件の提案の応募がありました。

運営事務局が設置した審査委員会（非公開）を、平成21年6月9日（火）に開催し、応募された提案について厳正に審査を行いました。

その後、事業内容の精査や事業実施手続きの確認などを経て、6月30日に9件を選定しました。

●選定された提案

選定された提案については、別紙概要を参照ください。

以上

平成21年度 FCP実行可能性調査事業の概要

事業名	実施者	概要
FCPポータルサイトの構築・運用	エヌ・ティ・ティ・テレゾナント(株)	消費者が、食品事業者等の「協働の着眼点」を活用した取り組みや効果を広く認知でき、簡単に利用できるポータルサイトの環境 goo 内に構築・運用 <ポイント> ・食品事業者の取組と「協働の着眼点」を見やすく項目立てて表示 ・食品事業者の取組事例を消費者目線でわかりやすく発信 ・消費者からの意見を収集するアンケート調査等の実施
「協働の着眼点」を活用したセルフアセスメントシートの開発と運用	(株)阪急クオリティーサポート	「協働の着眼点」を活用した中小規模の食品事業者が自ら食の安全・信頼確保のための課題を見出すことができるセルフアセスメントシートの開発・運用 <ポイント> ・品質管理の専門家がない中小企業でも活用可能なシートの開発 ・シートを活用した食品衛生の取組に関する通信教育の実施
「協働の着眼点」を活用した活動のためのツールの開発	三菱化学メディアエンス(株)	「協働の着眼点」を活用した食品事業に従事するパート・アルバイト従業者を対象とした教育ツールの開発 <ポイント> ・マニュアル、動画等を利用したわかりやすい教材の開発 ・理解度テストの導入による「協働の着眼点」の浸透度、効果の検証
「協働の着眼点」を活用した食の安全認証規格開発事業	SGSジャパン(株)	「協働の着眼点」を活用した食品購買側企業の要求事項をまとめた認証基準の開発・運用 <ポイント> ・「協働の着眼点」を活用し、重要項目が網羅・整理された基準の開発 ・認証基準についてのギャップ審査の実施により改善項目を明確化
食の安全取り組み成熟度の評価事業	(株)アイ・エス・レーティング	「協働の着眼点」を活用した食品事業者のマネジメント成熟度を評価するレーティングの仕組みの開発 <ポイント> ・実際のレーティングの仕組みと結果を有識者、食品事業者、金融機関関係者による委員会にて評価
「食品事業者(経営陣)向け研修プログラム」の開発	日本HACCPTトレーニングセンター	「協働の着眼点」を活用した食品事業者等の経営層を対象とした教育プログラムの開発 <ポイント> ・「協働の着眼点」を活用したテキストを使用した研修プログラムの試行 ・実施者が有する人材プールによる「協働の着眼点」の普及
地域の安全・良いモノ発掘マッシュアッププロジェクト	(株)CTU	カタログ販売の対象商品について「協働の着眼点」を活用した評価を行い、実際に販売することで顧客満足度やカタログ販売事業上の品質向上等の多面的な効果について検証 <ポイント> ・(株)ファミリーネットワークシステムズ(カタログ販売「わんまいる」)と提携した実証
全国地方の事業者と都市消費者とを対象にした「地域の良い[モノ]売れる商品支援事業」のモデルの構築と運営事業	(有)ケンプランニングオフィス	全国の地域産品を首都圏で販売する「とれたて村」の参加事業者に対し、「協働の着眼点」を活用した商品評価を実施し、地域の良いモノを作り販売する事業モデルの構築 <ポイント> ・「協働の着眼点」を活用したチェックシートによる商品の「見える化」 ・「見える化」された商品の販売・評価をモニタリングし、製品改善の課題を把握
”食の安全・安心”見える化ツアーのための商品モデル検討事業	(財)日本システム開発研究所	「協働の着眼点」を活用した消費者の工場、店舗等の見学に導入可能な食の安全・信頼確保のための取り組みを伝えるツアープログラムの開発・試行 <ポイント> ・ツアー参加者や参画食品事業者の事前・事後の評価を把握することでツアーによる食の信頼性向上についての効果を把握し、プログラムの改善を通じた企業と消費者の体験型の新しいコミュニケーション手法を構築 ・地域のサプライチェーンをつなぐ協働プロジェクトの実施を通じた、ビジネスパートナー間の相互コミュニケーション手法としても効果を検証